

髑髏城の七人
月

装幀 烏井和昌

目次

髑髏城の七人
月
7

あとがき
176

上演記録
180

髑髏城の七人
月

●登場人物

捨てのすけ
捨之介

てんまおう
天魔王

むかいやらんべえ
無界屋蘭兵衛

ごくらくたゆう
極楽太夫

ひょうご
兵庫

きりまる
霧丸

まゐあなじろうえもん
狸穴二郎衛門

がんでつさい
贗鉄斎

ときよう
渡京

のぎへい
のぎ平

はつとりはんぞう
服部半蔵

服部忍群

〈関東鬪腰党〉

さんちら いこま
珊底羅の生駒

しんだら そうげつ
真達羅の爪月

あにら けんぶ
頰備羅の剣布

〈無界の人々〉

おつや

無界屋の女達

〈関八州荒武者隊〉

あおきち
青吉

はくすけ
白介

くろへい
黒平

あかぞう
赤蔵

きへいじ
黄平次

鬪腰党鉄機兵

— 第一幕 —

天を見上げりや雲がある

人を見下ろしや雨になる

【第一景】

テロップ

「天正十年六月。天下統一を目前にした織田信長は、腹心明智光秀の謀反により、本能寺に果てた。それから数日後。信長の居城、安土城天守閣——。」

爆発。天守閣が炎に包まれる。

と、天守閣の一角に飾られている黒ずくめの異形の南蛮鎧。天魔の鎧と呼ばれている。そこを護っている徳川兵数人。

そこに一人の男が現れる。若いが落武者風。

徳川兵 1

何奴だ!!

徳川兵 2

六欲天ろくよくてんをご存じか。天でありながら未だ欲が生きる世界だ。
なに？

男

第一天は四王天しおうてん、第二天は忉利天たうりてん。

徳川兵 1

貴様!

徳川兵 2

織田の残党か!

と、刀を抜く徳川兵。それを睨み付けながら歩き出す男。

男 第三夜やまでん魔天、第四兜とそつてん率天、第五化けらくてん楽天。その最上天、第六天こそ他たけしざいてん化自在天。人の欲

を自在にかなえる魔王が棲むという。

刀を抜く男。

男 この安土城天守閣こそ第六天。人が最も天に近づいた場所だ。その価値も知らぬ貴様

ら徳川の兵がいるべき所ではない。

と、爆発。炎に包まれる天守閣。

徳川兵1 火事だ！

男 価値も知らぬ者に蹂躪されるくらいなら、落ちてしまいがよかろう。

徳川兵2 貴様の仕業か！

困む徳川兵達を叩きのめし、天魔の鎧に近づく男。

男 ……これだ。これこそが天魔の鎧。

鎧にさわりうつとりとする男。

男

これで今日から私が……。ああ、私こそが第六天魔王だ。

てんまおう

この男、のちの天魔王である。他の徳川兵も現れる。大勢に取り囲まれる天魔王。

天魔王

天の跡目を狙うは、浪速の猿か、駿府の狸か。笑止。人面獣心の輩が身の程を知れ。

徳川兵 1

ええい。やってしまえ！

男、剣を抜くと、襲いかかる徳川兵達をあつという間に斬り倒す。

天魔王

天は落ちても、天の意志は滅びない、いや、より赤く地獄の業火となって燃えさかる。この天魔の御霊、天魔王の手によってな！

髑髏の仮面を手にとると、哄笑する天魔王。

天魔王

来い、地を這う奸物どもよ。髑髏城で待っている。

炎の中に消える天魔王。

× × × ×

再びテロップが流れる。

テロップ

「そして時は流れ、天正十八年。天下統一は豊臣秀吉の手により、なされようとしていた。唯一、この関東荒野をのぞいては——。」

天正十八年（一五九〇）初め。関東荒野。

ある日の昼。おどおど歩いている旅姿の百姓。

のぎ平だ。

そこに駆け込んでくる黒づくめの甲冑の兵達。

この関東に覇を唱える一大武装集団、関東鬪體党の鉄機兵達だ。指揮するのは真達羅の

爪月。

逃げ惑う農民達。一緒に逃げ惑うのぎ平。

爪月

どげどげ。我らは関東鬪體党、逆らう奴は容赦はしない。

逃げ惑う農民達。一緒に逃げ惑うのぎ平。

のぎ平 ひいひい！

と、反対側から現れる頰あ備に羅らの劍布けんぶ。鬮體党の女幹部だ。

劍布 奴はいたかい、爪月。

爪月 いや、この辺の村は根こそぎ調べてみたが、どこにもいない。

農民達を痛めつける劍布。のぎ平もやられる。

劍布 目障りな連中だ。死にたくなければ、とつとと失せな!!
のぎ平 うわあああ！

のぎ平や農民達、逃げ出す。

劍布 これだけ探していないとはまずいね。

爪月 く。あの小僧、どこに隠れた。

と、そこに現れる霧丸きりまる。農民や侍ではない、山の民のなりをしている若者だ。腰に幅広の両刃の短刀をさしている。

霧丸 俺一人に大騒ぎだなあ、鬪體党。

劍布 貴様、霧丸。

爪月 逃げられぬと悟って姿を見せたか。

霧丸 冗談じゃねえ。この俺がただ尻尾を巻いて逃げ出したと思ってるのか。

劍布 でなければ何だというの。

霧丸 貴様ら鬪體党をぶつつぶすためだよ。

爪月 ほう、小僧一人で何が出来る。

霧丸 一人じゃねえよ。強い味方を連れてきた。

と、そこに現れる若者達。

派手な成りをしている傾奇者達、関八州荒武者隊だ。先頭に立っているのが頭目の兵庫。
背中に大刀を括り付けている。その他青吉、白介、黒平、赤蔵、黄平次。

兵庫 その通りだよ、鬪體党。

劍布 なに。

兵庫 この関東で好き勝手やろうたあふてえ根性だ。そんな無法、この俺達が見逃すと思っ
たか。

爪月 なんだ、貴様ら。

兵庫

関東荒野にその名も高い、天天天下の傾奇者。弱きを助け強きをくじく関八州荒武者隊。よおく覚えておきやがれ！

荒武者隊

おきやがれ！

兵庫

霧丸、だつたな。てめえの頼みは引き受けた。村を襲い百姓達を泣かせる鬻體党、前から気に入らなかつたんだ。

霧丸

見たか。この兵庫さんは、一声かけりゃあ関東の荒くれ者達二千人が集まるつて大物だ。てめえら鬻體党なんざ関八州荒武者隊がボコボコにしてやるぜ！

兵庫

まかせろ。みんな、やつちまえ！

荒武者隊

おう！

と、刀を抜き襲いかかる荒武者隊。但し、兵庫だけは刀を抜かず鞘のまま闘っている。

爪月の得物を鋼の手甲で受ける兵庫。

爪月

刀も抜かずにこの俺に勝とうというのか。身の程知らずにもほどがある。

兵庫

やかましい。てめえらみてえな外道相手に刀抜くほど、落ちぶれちゃいねえんだよ。

熱い想いをこの手に握り、男の筋は拳固げんこで通す。誰が呼んだか、抜かすの兵庫様だ！

だが、荒武者隊の男達が鉄機兵に叩きのめされ捕まっている。渡京は一人離れた所で様子伺っている。

青吉 あ、兄貴！。

兵庫 お前達。

霧丸 まだ終わったわけじゃねえ。今、残りの仲間が襲いにくるぜ。ですよね、兵庫さん。

兵庫 え。

霧丸 他の仲間ですよ。関八州荒武者隊の二千人。

兵庫 ……それは、こないな。

霧丸 なんです。

兵庫 目標二千人。今はここにいるだけだ。

霧丸 えー。冗談じゃねえ。そりゃ話が違う。

剣布 傾奇者など所詮この程度。頼った相手が悪かったようだね、霧丸。

霧丸 く。

兵庫 安心しろ。これで終わる俺達じゃねえ。こういう時のために、こつちにも軍師がいる

んだよ。

おお。

霧丸 その通り。関八州荒武者隊一の切れ者、転ばぬ先の小田切渡京、ここにあり。

渡京 一発大逆転の秘策、頼んだぜ、渡京。

渡京 まかせてもらおうか。ふっふっふっふ。

中島かずき（なかしま・かずき）

1959年、福岡県生まれ。舞台の脚本を中心に活動。85年4月『炎のハイバーステップ』より座付作家として「劇団☆新感線」に参加。以来、『髑髏城の七人』『阿修羅城の瞳』『朧の森に棲む鬼』など、“いのうえ歌舞伎”と呼ばれる物語性を重視した脚本を多く生み出す。『アテルイ』で2002年朝日舞台芸術賞・秋元松代賞と第47回岸田國士戯曲賞を受賞。

この作品を上演する場合は、中島かずきの許諾が必要です。

必ず、上演を決定する前に申請して下さい。

(株) ヴィレッジのホームページより【上演許可申請書】をダウンロードの上必要事項に記入して下記まで郵送してください。
無断の変更などが行われた場合は上演をお断りすることがあります。

送り先：〒160-0022 東京都新宿区新宿3-8-8 新宿 OT ビル 7F
株式会社ヴィレッジ 【上演許可係】 宛

<http://www.village-inc.jp/contact01.html#kiyaku>

K. Nakashima Selection Vol. 28

髑髏城の七人 月

2017年11月23日 初版第1刷発行

2018年1月11日 初版第3刷発行

著 者 中島かずき

発行者 森下紀夫

発行所 論創社

東京都千代田区神田神保町2-23 北井ビル

電話 03(3264)5254 振替口座 00160-1-155266

印刷・製本 中央精版印刷

ISBN978-4-8460-1673-9 ©2017 Kazuki Nakashima, printed in Japan

落丁・乱丁本はお取り替えいたします